

令和元年度

佐々町教育委員会自己点検・評価報告書

佐々町教育委員会

〈参考〉地方教育行政の組織及び運営に関する法律

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

目 次

はじめに.....	1
1 趣旨.....	2
2 点検・評価の対象.....	2
3 点検・評価の方法.....	2
4 外部評価委員の意見.....	3
5 自己点検・評価総括表.....	6～14
6 令和元年度佐々町教育委員会自己点検・評価シート.....	15

はじめに

佐々町では、平成24年に第1期の教育振興基本計画を策定し、本町教育の充実に努めてきました。

この間、小・中学校において新学習指導要領が全面実施になり、授業時数の増加や小学校における外国語活動の導入、言語活動の充実・理数教育の充実・道徳教育の充実等の改訂が行われました。その後も、国では「教育の再生」を最重要課題の一つとして掲げ「教育再生実行会議」において、「いじめ対策」「グローバル化への対応」といった具体的な事項から「教育委員会制度の在り方」等の基本的な制度改革まで幅広い検討がなされ、今後も急速な教育改革が予想されます。そのような中で、平成27年3月には新学習指導要領の一部改正が行われ「道徳」が「特別の教科 道徳」になるなどの大きな変化がありました。さらに、平成29年度中には平成32年の完全実施を目指した学習指導要領の改訂がなされました。

また、少子高齢化や国際化・グローバル化等のさらなる進展に加えて、未曾有の大災害の発生や全国的に顕在化した深刻ないじめ・体罰問題、情報モラルの問題など教育を取り巻く環境も大きく変化してきました。

本町でも、平成27年10月に「佐々町まち・ひと・しごと創生総合戦略」が、平成28年度に「第6次佐々町総合計画・後期基本計画」が策定され、教育が「まちづくり」に果たすべき役割も示されました。

これらの動きに対応して、電子黒板の全教室配置等の教育環境の充実や、町内の3つの小・中学校による3校共同研究の充実による教職員の研修機会の確保や、「佐々っ子応援団」活動の推進による学校・家庭・地域の連携の推進等を行い多くの成果を上げてきました。

平成29年度に策定した第2期佐々町教育振興基本計画は、これらの教育を取り巻く環境の急速な変化と第一期計画の成果と課題を踏まえた上で、「21世紀を豊かに生きる地域づくりと人づくり」を目指して本町の教育の基本的な方向性を示し、本町教育の振興に取り組んでいこうとするものです。

こうした計画の実現に向けた取組については、教育委員会が高い使命感をもって責任を果たすとともに、教育行政の体制の整備及び充実に努め、効果的な教育行政を推進するため、令和元年度の教育委員会活動の点検及び評価を実施し、報告書として取りまとめました。

令和3年2月

佐々町教育委員会

教育長 黒川 雅孝

1 趣旨

佐々町教育委員会は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定に基づき、毎年、その権限に属する主要な施策や事務事業の取組状況について、政策効果を把握し、その必要性・効率性等の観点から、自ら点検及び評価を行い、課題や取組の方向性を明らかにすることにしております。

佐々町教育委員会では、このことを踏まえて効果的な教育行政の一層の推進を図るとともに、この点検及び評価の結果に関する報告書を作成し、議会に提出し、また一般に公表することにより、町民に対する説明責任を果たし、信頼される教育行政を推進しようとするものです。

2 点検・評価の対象

点検及び評価は、前年度における教育委員会の主要な施策・事業を対象として実施するものとし、本年度は令和元年度に実施いたしました事業について点検及び評価を実施いたしました。

3 点検・評価の方法

点検・評価にあたっては、「第6次佐々町総合計画・後期基本計画」や「佐々町まち・ひと・しごと創生総合戦略」との関連を図りつつ

- ① 文章表現は要点を記載する。
- ② 「活動指標」に具体的な取り組みを記載して取り組みを明確にするとともに、評価を行う。
- ③ 「成果指標」を明確にすることで進捗状況や、その成果を明らかにすることにした。

「活動指標」と「成果指標」を明確に分けることを試みましたが、活動がそのまま成果になる施策もあり、「活動指標」と「成果指標」が類似した設定となる部分も生じました。

また、5年間の計画ではあるものの、今後の急速な教育改革が予想されることから、「活動指標」と「成果指標」については毎年度見直しを行うとともに、内容についても必要に応じて見直しを行い、現状と計画の乖離をなくすようにします。

評価については、下記のように行います。

【活動指標】

- ・4段階評価とする。
 - ・教育委員会の自己評価に加えて学校等による自己評価を行う。
 - ・評価 3.20 以上を「A」、3.19～2.80 を「B」、2.79～2.40 を「C」、2.39 以下を「D」とする。
- なお、複数の機関等による評価の場合はその平均値とする。

【成果指標】

- ・目標値に対する達成度が80%以上を「A」、79～70%を「B」、69～60%を「C」、59%以下を「D」とする。

なお、第2期佐々町教育振興基本計画の改善のため、評価は、平成28年度実績から行います。

また、客観性を確保するための外部評価については、次のとおり外部評価委員会を設け評価を受け、その委員の意見をまとめました。

○佐々町教育委員会外部評価委員名簿

氏 名	所 属 等	任 期
川原 紀美雄	元長崎県立大学副学長	平成 31 年 4 月 1 日～令和 3 年 3 月 31 日
弥勒院 孚麿	元公立小学校校長	平成 31 年 4 月 1 日～令和 3 年 3 月 31 日

4 外部評価委員の意見

教育委員会の活動指標及び成果指標に基づき、それぞれの委員の意見を記述しています。

(川原委員)

佐々町教育委員会におかれては、平成 29 年 4 月より第 2 期佐々町教育振興基本計画により、本町教育の基本的な方向性を示し、本町教育の振興に取り組むこととし、評価については平成 28 年度実績から行い、その改善に資するようにされている。

○活動指標、成果指標はいずれも 4 段階、「A」から「D」とし、[総括表] (1 ページ)を見ると(活動指標)は教育委員会及び学校とも 100%掲げておられて体制は整っているように見える。また(成果指標)もBやDはあるもののAが90.4%と相対的にみてA評価に値すると指摘しておられる。

ここ数年、教育委員会、学校現場が不登校児童を直視し、その解消に尽力されておられることに敬意を表するものであるが、全児童参加のもと望むべきは児童・若者の希望あふれる教育理解が進むことであろう。それにしては、(成果指標)において90.4%でA評価とされて陰に隠れた形の9.6%B, Dにこそ教育の質的転換を図るべき喫緊の課題があるのではないかと考える。

B, Dとは何か。Bは成果指標のNO11、ICTを活用して学習に取り組むことができる児童生徒の割合77.2%、県学力調査(英語)で6割以上理解している中学生の割合12.6%で、D評価になっている。NO30、学校図書館の生徒一人当たりの貸出冊数は4冊でD評価になっている。これは町立図書館における生徒への貸出冊数まで広げて、読書量を確認する必要があると思われる。

さらに、一度NO6、NO7の佐々町学力調査の到達度、全国学力調査の到達度Aと比較・考慮、精査してみることもお奨めしたい。さもないと子供たちが描いている将来の夢の希薄化の根因が見えてこないでしょう。NO16(夢やあこがれがある児童の割合・小学校)、Aから17(夢の実現に向けて行動している生徒の割合・中学校)、Bへの変化を参照いただきたい。小学校から中学校へ進級する上で、希望が失せていることを示しているように見えるからである。

外部評価にあたって、光り輝く小さな町と評されている佐々町にある小中学校としてさらに躍進されることを願っている。

(弥勒院委員)

1 全体として

昨年に引き続き活動指標の、ほとんどが「A」の段階にあるということは、佐々町の教育にかかわる活動は、全般的に「なすべきことが、きちんとなされている」状況にあると考えられる。

成果指標についても、ほとんどが「A」であり、全体的には佐々町の教育の成果は、確実に上がっていると考えられる。また、昨年度と比較して向上した項目もあり、改善への取組が着実になされていることもうかがえる。

2 教育委員会自己点検・評価について

① 一人一人の可能性を伸ばす教育の推進

「全国学力調査の到達度」が評価は、「A」であり到達度も97%と、ほぼ全国平均と同等であるが、昨年度の100.3%と比較すると低下している。単年度の結果に一喜一憂する必要はないが、常に全国平均を上回るようにして欲しい。

「ICTを活用して学習に取り組むことができる児童生徒の割合」の達成度が向上しているが、GIGAスクール構想の実現に向けて、さらなる向上を望みたい。

「簡単な英語を話せる中学生」は向上しているものの、「県学力調査(英語)で6割以上理解している中学生の割合」は、12.6%と非常に厳しい状況にある。具体的な改善策が必要である。

② 豊かな人間性・社会性を育む教育の推進

「我が国の伝統や文化について理解と愛情のある児童生徒の割合」が昨年度の65.7%から88.0%に向上しているが、小中学生にとっては、問い自体の理解が難しいと感じる。

「学校図書館の児童生徒一人当たりの貸出冊数」が小学校では良好であるのに、中学校の状況が非常に厳しい。早急に具体的な対策が必要である。

③ 豊かな体を育成する教育の推進

全ての項目の評価は「A」であるが、「全国体力・運動能力の到達度(全国比)」は、ほぼ全国並であるが、全国平均を上回る取組をお願いしたい。

④ 信頼される学校づくりの推進

全ての項目の評価は「A」であり、「食」に関する状況は良好である。生活習慣に係わる就寝や起床の時間は家庭への啓発を、さらに進める必要がある。

いじめの解消件数は100%であるが、「学校が認知していない、いじめがないか」を常に意識した取組の継続を望みたい。また、不登校者の割合は県平均を下回るものの、さらに低下させる取組をお願いしたい。

⑤ 教育環境整備の推進

子ども安全対策に対する取組はよくなされている。しかし、近年の想定以上の災害や事件・事故が発生しており、常に危機意識を持った取組を継続してほしい。

評価には出ていないが、空調設備の整備や小学校トイレの洋式化等の安全で快適な学校環境の整備が進んでいることを高く評価したい。

⑥ 学校・家庭・地域の連携の推進

非常に良好な結果である。特に「放課後子ども教室参加児童数」及び「土曜学習参加児童数」が目標値を大きく上回っており、取組が定着してきたことがうかがえる。しかし、令和2年度は新型コロナウイルス感染症により、各種活動が中止または縮小しており厳しい結果が予想される。新型コロナウイルス感染症の終息後に活動が円滑に再開できる準備をお願いしたい。

⑦ 生涯学習・社会教育の推進

「読み聞かせへの参加世帯数」が、昨年度の9世帯から17世帯と大きく伸びている。佐々町の社会教育の大きな特徴と思われる活発な住民ボランティア活動の成果とも考える。今後とも、住民の主体的な活動による社会教育・生涯学習を推進していただきたい。

「町民一人当たりの貸出冊数」昨年の10.0冊が10.3冊と伸び悩んでいる。近郊に類似図書館が出来たことや全国的な貸出冊数の伸び悩みの傾向にあると聞く中で健闘していると感じるが、佐々町の文化拠点の一つである図書館の活性化に向けて、さらなる工夫をお願いしたい。

⑧ 生涯スポーツの推進

「スポーツイベントへの参加者数」が激減したが、新型コロナウイルス感染症予防のために、佐々町最大のスポーツイベントであるジョギングフェスティバルを中止したという、やむを得ない事情によることであり、致し方ない。

しかし、他の項目については、非常に良好な結果であり、新型コロナウイルス感染症の終息後に活動が円滑に再開できる準備をお願いしたい。

⑨ 芸術・文化を守り、育てる活動の推進

「社会教育講座、公民館講座における郷土学習の開催件数」が昨年度の「D」評価から「A」評価へと改善した。郷土佐々町を題材とした講座は町民の関心も高く、郷土愛を育む効果が期待できる。着実に実施していただきたい。

⑩ 新たな地域文化創造の推進

「地域交流センターの利用者数」は、建設時の見込み数であり、実態と合っていない。建設から数年経過しており、実態に合わせて目標値を設定し、評価・改善を図ることが肝要と考える。検討が必要である。

3 佐々町教育委員会自己点検・評価シートについて

新学習指導要領の実施や教科書採択に加えて、子どもたちの安全対策、空調設備の整備、教職員の働き方改革、社会教育・生涯学習の充実と教育委員会に求められる施策や対応は増加・困難化している。

そのような中で、全ての「評価」が「A」であることは素晴らしいが、今後とも国、県、他市町の動きに適切に対応して佐々町の教育が遅滞なく推進出来るようにお願いしたい。

4 佐々町教育振興基本計画について

現在の佐々町教育振興基本計画は令和3年度までとなっており、次期の教育振興基本計画について来年度検討されると思うが、現在の教育振興基本計画は学校評価・教育委員会評価と連動しており、佐々町の教育の振興状況について非常に分かりやすい。また、数値化がなされることにより、全体を俯瞰することができる。

次期の教育振興基本計画の策定に当たっては、効果的・効率的なPDCAができる、現在の特徴を継承していただきたい。

令和元年度 佐々町教育委員会自己点検・評価総括表

平成29年4月より第2期佐々町教育振興基本計画(Plan)により、本町の教育の基本的な方向性を示し、本町教育の振興に取り組むこととしましたが、評価については平成28年度実績から行い、その改善に資することとしました。

評価には、具体的な取り組みを記載した「活動指標」と進捗状況や成果を記載する「成果指標」を設定し、「何を行い(Do)」、「その結果がどうだったか(Check)」が明確になるようにしました。

また、教育委員会や評価委員会において評価結果について検討することで改善(Action)につなげることとしました。なお、「活動指標」及び「成果指標」は下記のように評価しました。

なお、成果指標「N0.13」及び「No.14」については、調査の裏付けとなる長崎県教育委員会の学校運営調査の表現が変わったため、「評価の内容」の記載を変更しました。

表現が変わっただけで、内容は同じであることから、「現状値」「目標値」等の変更は行いませんでした。

変更箇所については、一覧表中に青で塗りつぶして表示しました。

○活動指標

- ・4段階評価とする。
- ・評価3. 20以上を「A」、3. 19～2. 80を「B」、2. 79～2. 40を「C」、2. 39以下を「D」とする。なお、複数の機関等による評価の場合はその平均値とする。

○成果指標

- ・目標値に対する達成度が80%以上を「A」、79～70%を「B」、69～60%を「C」、59%以下を「D」とする。

【総括表】

(活動指標)

	教育委員会	学校等	割合	A+Bの割合
A	96	119	100.0%	100.0%
B	0	0	0.0%	
C	0	0	0.0%	
D	0	0	0.0%	
計	96	119	100.0%	

(成果指標)

	数	割合	A+Bの割合
A	66	90.4%	94.5%
B	3	4.1%	
C	0	0.0%	
D	4	5.5%	
計	73	100.0%	

大 項 目	活動指標	成果指標
1 一人一人の可能性を伸ばす教育の推進	A	A
2 豊かな人間性、社会性を育む教育の推進	A	A
3 健やかな体を育成する教育の推進	A	A
4 信頼される学校づくりの推進	A	A
5 教育環境整備の推進	A	A
6 学校・家庭・地域の連携の推進	A	A
7 生涯学習・社会教育の推進	A	A
8 生涯スポーツの推進	A	A
9 芸術・文化を守り、育てる活動の推進	A	A
10 新たな地域文化創造の推進	A	A

令和元年度 教育委員会自己点検・評価

		活 動 指 標								成 果 指 標							
大項目	中項目	NO	教育委員会指標の内容	達成度	評価	学校等指標の内容	対象	達成度	評価	NO	評価の内容	現状値	目標値	該当年度値	達成度	評価	調査
1 一人一人の可能性を伸ばす教育の推進	① 基礎的・基本的な学習の充実	1	学習指導要領の適切な実施への指導	4.0	A	学習指導要領の適切な実施	学校等	4.0	A	1	3校研における公開授業の開催数	3回	3回以上	3.0	100.0%	○	実態調査
		2	教材・教具の充実のための支援	4.0	A	教材・教具の充実	学校等	4.0	A	2	「ICT機器を使った授業の内容はよく分かる」と答えた児童生徒の割合	69%	90%以上	93.4	103.8%	A	学校運営調査
		3	授業改善の指導・支援	4.0	A	授業改善の推進	学校等	4.0	A	3	自分で計画を立てて勉強をしている児童生徒の割合	58%	70%	69.7	99.5%	A	全国学力調査
		4	ICT教育推進のための環境整備	4.0	A	ICT教育の推進	学校等	4.0	A								
		5	学校訪問による指導	4.0	A	経年経過研修の効果的な実施	学校等	4.0	A								
		6	3校共同研究の支援・指導	4.0	A	3校共同研究の効果的な実施	学校等	4.0	A								
		7	校内研修の支援・指導	4.0	A	校内研修の効果的な実施	学校等	4.0	A								
		8	職員研修の推進・支援	4.0	A	職員研修の効果的な実施	学校等	4.0	A								
		9	加配教員の活用のための支援	4.0	A	加配教員の効果的な活用	学校等	4.0	A								
		10	学力向上支援員の配置	4.0	A	学力向上支援員の効果的な活用	学校等	4.0	A								
		11	サポート・ティーチャー配置への支援	4.0	A	サポート・ティーチャーの効果的な活用	学校等	4.0	A								
		12	ALT配置への支援	4.0	A	ALTの効果的な活用	学校等	4.0	A								
		13	学力向上のための指導・支援	4.0	A	学力向上のための取組の充実	学校等	4.0	A								
		14				家庭学習の習慣化の指導	学校等	4.0	A								
		15				授業規律の徹底	学校等	4.0	A								
		16				校内研究授業の効果的な実施	学校等	4.0	A								
	② 知識・技能の習得と活用する力を育む取組の推進	17	横断的・総合的な学習への支援	4.0	A	横断的・総合的な学習の効果的な実施	学校等	4.0	A	4	横断的・総合的な学習の実施率	100%	100%を維持	100.0	100.0%	A	実態調査
		18	体験活動実施への支援	4.0	A	体験活動の効果的な実施	学校等	4.0	A	5	ボランティア活動など社会奉仕に関わる体験活動の実施率	100%	100%を維持	100.0	100.0%	A	学校運営調査
		19	佐々町学力調査実施・活用への支援	4.0	A	佐々町学力調査結果向上への取組	学校等	4.0	A	6	佐々町学力調査の到達度	1.00	1.00以上	0.96	96.0%	A	町学力調査
		20	全国学力調査実施・活用への支援	4.0	A	全国学力調査結果向上への取組	学校等	4.0	A	7	全国学力調査の到達度	0.99	1.00以上	0.97	97.0%	A	全国学力調査
	③ 学校間の連携の推進	21	3校共同研究の支援・指導	4.0	A	3校共同研究の効果的な実施	学校等	4.0	A	8	3校共同研究による相互交流授業・研究の実施回数	3回	3回以上	3.0	100.0%	○	実態調査
		22	「佐々子ゆめプラン」啓発の支援	4.0	A	「佐々子ゆめプラン」の啓発	学校等	4.0	A	9	中学校体験入学の実施率	100%	100%を維持	100.0	100.0%	A	実態調査
		23				中学校体験入学の効果的な実施	学校等	4.0	A	10	両小学校交流の実施率	100%	100%を維持	100.0	100.0%	A	実態調査
		24				両小学校交流機会の設定	学校等	4.0	A								
	④ 情報教育の推進	25	ICT支援員の配置	4.0	A	ICT支援員の有効な活用	学校等	4.0	A	11	ICTを活用して学習に取り組むことができる児童生徒の割合	68%	100%	77.2	77.2%	B	学校運営調査
		26	ICT教育推進のための環境整備	4.0	A	電子黒板の効果的な活用	学校等	4.0	A	12	授業中にICTを活用して授業ができる教員の割合	データなし	100%	100.0	100.0%	A	実態調査
		27				タブレットPCの効果的な活用	学校等	4.0	A								
		28				情報教育の適切な実施(中学校)	学校等	4.0	A								
		29				情報モラル教育の適切な実施	学校等	4.0	A								

		活 動 指 標								成 果 指 標										
大項目	中項目	NO	教育委員会指標の内容		達成度	評価	学校等指標の内容		対象	達成度	評価	NO	評価の内容		現状値	目標値	該当年度値	達成度	評価	調査
1 一人一人の可能性を伸ばす教育の推進	⑤ 外国語教育・国際理解教育の推進	30	ALT配置への支援		4.0	A	ALTの効果的な活用		学校等	4.0	A	13	簡単な挨拶や自己紹介などを英語ですることができる小学生の割合		94%	95%	90.5	95.3%	A	学校運営調査
		31	外国語活動の適切な実施への支援(小学校)		4.0	A	外国語活動の適切な実施(小学校)		学校等	4.0	A	14	知っている英語を使って、日常生活や好きなことなどについて、簡単な英語で話すことができる中学生の割合		51%	70%	77.1	110.1%	A	学校運営調査
		32	英語力向上のための取組の支援(中学校)		4.0	A	英語力向上のための取組の推進(中学校)		学校等	4.0	A	15	県学力調査(英語)で6割以上理解している中学生の割合		43%	70%	12.6	18.0%	D	実態調査
	⑥ キャリア教育の推進	33	キャリア教育推進のための支援		4.0	A	地域人材等を活用した「生き方」を学ぶ機会の提供		学校等	4.0	A	16	夢や憧れがある児童の割合(小学校)		93%	100%	92.0	92.0%	A	学校運営調査
		34					勤労・生産的な学習の実施		学校等	4.0	A	17	夢の実現に向けて行動している生徒の割合(中学校)		64%	100%	74.0	74.0%	B	学校運営調査
		35					職業に関連する学習の実施		学校等	4.0	A									
		36					職場見学を含む学習の実施(小学校)		学校等	4.0	A									
		37					職場体験の実施(中学校)		学校等	4.0	A									
	⑦ 幼児教育の推進	38	幼児教育の適切な実施への支援・指導		4.0	A	幼児教育の適切な実施		幼稚園			18	小学校体験入学の実施率		100%	100%を維持				実態調査
		39	就学時健康診断の適切な実施		4.0	A	小学校への適切な引き継ぎの実施		幼稚園											
		40	幼稚園就園奨励費事務の適切な実施		4.0	A	小学校体験入学の効果的な実施		学校等											
	⑧ 特別支援教育の推進	41	「合理的配慮」の提供		4.0	A	「合理的配慮」の提供		学校等	4.0	A	19	個別的教育支援計画の作成率		70%	100%	100.0	100.0%	A	特別支援教育事業調査
		42	特別支援教育支援員の配置		4.0	A	特別支援教育支援員の効果的な活用		学校等	4.0	A	20	特別支援教育を理解している教員の割合		データなし	100%	100.0	100.0%	A	実態調査
		43	就学指導委員会の適切な開催		4.0	A	校内の相談・指導体制の確立		学校等	4.0	A									
		44	関係機関との連携		4.0	A	関係機関との連携		学校等	4.0	A									
		45	特別支援教育に関わる担当者研修会の開催		4.0	A	特別支援教育に関わる研修会の開催		学校等	4.0	A									
		46	就学時健康診断の適切な実施		4.0	A	小学校への適切な引き継ぎの実施		学校等	4.0	A									
		47					子どもの情報の共有		学校等	4.0	A									
		48					個別的教育支援計画の作成		学校等	4.0	A									
1 一人一人の可能性を伸ばす教育の推進	評価 所見	教育委員会項総合評価(活動指標)				学校等項総合評価(活動指標)				項総合評価(成果指標)										
		達成度平均: 4.0 総合評価: A				達成度平均: 4.0 総合評価: A				評価平均: 91.9% 総合評価: A										
	所見(幼稚園)																			
	所見(佐々小)	一人一人の可能性を伸ばす教育の推進については、教育支援員及びICT支援員、また地域人材(サポートティーチャー、婦人会等)を適切に活用し、学力向上に向けて授業改善「伝え合い」を軸に確実に成果が上がっている。またICTの効果的な活用により、県学力や全国学力学習状況調査、年度末の町学力調査の結果においても、安定した成果が見られ、ほとんどの学年で全国平均を上回っている。今後も今の指導方針を継続し、さらに子どもたちの自己肯定感を高め、一人一人の可能性を伸ばす教育の実現を目指す。また、通級指導教室や特別支援学級での学びが情緒的に不安定だった子どもたちを落ち着いた学校生活に導き、学校全体の雰囲気も大きく変わった。特別に支援が必要な子どもやそうでない子どもも学習に挑む姿にやる気を感じられ、共に輝く佐々小の子どもたちの育成が期待できる。																		
	所見(口石小)	令和元年度は、算数科の研究を深め授業改善を進めるとともに、活用問題や発展的な問題など課題となる部分を強化する機会を口石つ子タイムで確保し、学校全体で学力向上に取り組む体制が充実するように改善した。児童は授業を中心に成功体験や充実感を感じたことで自己肯定感が高まり、自己評価でも向上している。																		
	所見(佐々中)	生徒一人一人に「確かな学力」を身に付けさせるために、主体的に学ぶ意欲や態度の育成を図りながら、基礎学力の定着とともに、生徒一人一人の能力を引き出し、最大限に伸ばすことや自己実現への支援体制の確立に努めた。また、教職員の資質向上のために県教育委員会学力向上班の援助もいただき授業改善に取り組んだ。学力向上の即効性はないが教職員の意識の改善につながっている。しかし、全国学力調査や佐々町学力調査では、全国平均を超えることができておらず、さらなる学力向上にむけて、全教科で共通実践要領を決め取り組んでいきたい。																		
	所見(委員会)	新学習指導要領の実施による授業時数増に対応して、土曜授業の実施及び夏期休暇の短縮を実施した。土曜授業日は授業参観日とし、多くの保護者から「勤務を休まずにすみ参観しやすい」と好評であった。夏期休業日の短縮については、空調設備を完備することで快適な学習環境を提供できた。学力向上に関しては、小中平均では全国学力調査の全国平均を下回る結果となった。中学校の改善が必要である。小学校における「対話的な学習」や中学校における県教委から指導者を招致しての5教科の研究授業等の授業改善の推進やALT、学習支援員、サポートティチャーの活用、電子黒板等の活用が行われた。3校共同研究は定着したものの、小中の学習指導に係わる連携には改善が必要である。外国語教育は小学校英語専科の活用によって小学校のレベルは向上したが、そのことを中学校に生かすことに課題が感じられる。特別支援教育については、特別支援教育に係わる支援員の研修会の実施等、教職員のスキルアップに取り組んだ。また、通級指導加配を各校に配置して充実を図った。しかし、対象児童生徒が増加し、多様化していることから、今後とも特別支援教育充実のための方策を考えて行く必要がある。																		

		活 動 指 標								成 果 指 標							
大項目	中項目	NO	教育委員会指標の内容	達成度	評価	学校等指標の内容	対象	達成度	評価	NO	評価の内容	現状値	目標値	該当年度値	達成度	評価	調査
2 豊かな 人間性、 社会性 を育む 教育の 推進	① ふるさと教育の推進	49	佐々町郷土資料の活用推進	4.0	A	佐々町を学習材とした授業の実施(小3・4年の社会)	学校等	4.0	A	21	我が国の伝統や文化について理解と愛情のある児童生徒の割合	77%	100%	88.0	88.0%	A	学校運営調査
						身近な地域の調査の実施(中1年の社会)	学校等	4.0	A	22	「佐々町博士」の活用度	100%	100%を維持	100.0	100.0%	A	実態調査
		50	「佐々町博士」の改訂・配布	4.0	A	「佐々町博士」の有効な活用	学校等	4.0	A								
		51				青少年劇場への参加と成果の活用	学校等	4.0	A								
	② 道徳教育の推進	52	道徳に関する研修会への参加促進	4.0	A	道徳に関する研修会への参加	学校等	4.0	A	23	「長崎っ子の心を見つめる教育週間」における道徳授業の公開率	100%	100%を維持	100.0	100.0%	A	実態調査
		53	道徳教科書採択への適切な対応	4.0	A	道徳教科書採択への適切な対応	学校等	4.0	A	24	周囲や相手のことを思いやって生活できている児童生徒の割合	90%	100%	88.4	88.4%	A	学校運営調査
		54	佐々っ子3ヶ条の啓発	4.0	A	佐々っ子3ヶ条の啓発	学校等	4.0	A								
		55				道徳の授業の効果的な実施	学校等	4.0	A								
		56				「長崎っ子の心を見つめる教育週間」における道徳授業の公開	学校等	4.0	A								
		57				豊かな情操、規範意識、道徳心を育むための日常的な取組	学校等	4.0	A								
	③ 人権教育の推進	58	人権教育推進のための支援・指導	4.0	A	人権学習の実施(教科等を含む)	学校等	4.0	A	25	周囲や相手のことを思いやって生活できている児童生徒の割合	90%	100%	88.4	88.4%	A	学校運営調査
		59	いじめ防止基本方針に従った指導・対応	4.0	A	人権集会の実施	学校等	4.0	A	26	「いじめ」の解消率	100%	100%を維持	100.0	100.0%	A	実態調査
		60				「人権作文」への応募(中学校)	学校等	4.0	A								
		61				いじめ防止基本方針に従った指導・対応	学校等	4.0	A								
		62				いじめへの適切な対応と早期の解消	学校等	4.0	A								
	④ 平和教育の推進	63	平和教育推進のための支援・指導	4.0	A	平和学習の実施(教科等を含む)	学校等	4.0	A	27	戦争の悲惨さや平和の尊さについて理解を深めている児童生徒の割合	99%	100%	98.0	98.0%	A	学校運営調査
		64				平和集会(8月9日)の実施	学校等	4.0	A								
	⑤ 環境教育の推進	65	環境教育推進のための支援・指導	4.0	A	環境学習の実施(教科等を含む)	学校等	4.0	A	28	環境問題に関心があり、何らかの取組を実践している児童生徒の割合	65%	80%	84.5	105.6%	A	学校運営調査
		66				自然とふれあう活動の実施	学校等	4.0	A								
	⑥ 体験活動の推進	67	体験活動推進のための支援・指導	4.0	A	体験活動の充実	学校等	4.0	A	29	佐々町の地域資源を活用した体験活動の実施率	100%	100%を維持	100.0	100.0%	A	実態調査
		68	町の地域資源を活用した体験活動の推進	4.0	A	町の地域資源を活用した体験活動の推進	学校等	4.0	A								
		69				特別活動の充実	学校等	4.0	A								
	⑦ 読書活動の推進	70	読書活動推進のための支援・指導	4.0	A	「朝読書」の実施	学校等	3.7	A	30	学校図書館の児童生徒一人当たりの貸出冊数	小:75冊	小:80冊	95	118.8%	A	学校運営調査
		71				「読み聞かせ」の実施(小学校)	学校等	4.0	A			中:14冊	中:20冊	4	20.0%	D	学校運営調査
		72				読書活動推進のための取組	学校等	4.0	A								
	⑧ 伝統文化にふれる機会の充実	73	青少年劇場の開催	4.0	A	青少年劇場への参加と成果の活用	学校等	4.0	A	31	舞台芸術を生で鑑賞したことがある生徒の割合	100%	100%を維持	100.0	100.0%	A	学校運営調査
		74	伝統文化にふれる機会の充実のための支援・指導	4.0	A	文化芸術の鑑賞機会の充実(教科等を含む)	学校等	4.0	A	32	文化や芸術に関わる体験活動の実施率	100%	100%を維持	100.0	100.0%	A	実態調査
		75				文化芸術に関わる体験活動の実施(教科等を含む)	学校等	4.0	A								

	評価	教育委員会項総合評価(活動指標)		学校等項総合評価(活動指標)		項総合評価(成果指標)	
		達成度平均: 4.0	総合評価: A	達成度平均: 4.0	総合評価: A	評価平均: 92.9%	総合評価: A
2.豊かな人間性、社会性を育む教育の推進	所見	学級経営の軸とし、豊かな人間関係の構築と活性化を図るために、QUテストの結果を詳細に分析し、生かしている。さらに、確固たる実践力を高めるために、教育課程において体験活動の充実を図っている。道徳教育、人権教育、平和教育等、学習した内容が、日常生活等において実践につながるよう、特別活動等を中心とした体験活動の充実も図っている。また、図書館教育については、児童会を中心とし、読書活動に取り組もうとする意欲の高まりが学校全体に感じられる。読書活動を推進することで、情操教育が高まり、読書冊数の増減のみに視点を置くことなく、人間関係の構築をねらいとした活動も展開している。					
	所見(口石小)	思いやりや平和の大切さについては100%になるよう学校教育を推進していく。ふるさと教育は、地域人材の方との活動を継続的かつ積極的に行った。一人当たりの読書数は昨年度よりも増え目標冊数を達成できた。環境意識の高まりは地域人材の活用による環境教育の取り組みの成果が出てきたといえる。青少年劇場は2年に1度の開催で本年度は実施しなかったが、学校開放日などを中心に文化芸術に係る機会を設定した。					
	所見(佐々中)	豊かな人間性、社会性を育む教育の推進を図るため、長崎っ子の心を見つめる教育週間の取組、道徳の授業、平和集会、人権集会等で生徒の規範意識や道徳心を高める取組を実施した。いじめ問題については、早期発見・早期対応を徹底し、いじめを許さない態度・雰囲気醸成に取り組んだ。現在、解消率は100パーセントとなっているが、今後も定期的なアンケートの実施、教師がアンテナを高く張り対応することを徹底する。また、今後求められる読解力をつけるためにも読書活動の充実を図るため図書司書と連携を図りながら対応していきたい。					
	所見(委員会)	小学校における「佐々町博士」の活用は定着している。また、総合的な学習の時間における佐々町を学習材とした体験的な学習を学習発表会で発表する学習プログラムが定着している。道徳教育や人権教育・平和教育は年間指導計画に則って実施されている。しかし、道徳の「考える道徳」「議論する道徳」への転換については、さらに研修の機会を設ける必要である。中学校の読書活動の充実については、早急な改善が必要である。					

		活 動 指 標								成 果 指 標							
大項目	中項目	NO	教育委員会指標の内容	達成度	評価	学校等指標の内容	対象	達成度	評価	NO	評価の内容	現状値	目標値	該当年度値	達成度	評価	調査
3 健やかな体を 育成する教育 の推進	① 体力向上の取組の推進	76	体力向上に対する支援・指導	4.0	A	体育の授業の充実	学校等	4.0	A	33	全国体力・運動能力調査の到達度(全国比)	1.010	1.000	0.957	95.7%	A	体力運動能力調査
		77	運動に親しめる環境の整備	4.0	A	運動の機会の充実(部活動を含む)	学校等	4.0	A	34	体育の授業で運動ができるようになった児童生徒の割合	84%	85%以上	88.0	103.5%	A	体力運動能力調査
		78				体育的行事の充実	学校等	4.0	A	35	体育の授業が楽しいという児童生徒の割合	89%	90%以上	90.1	100.1%	A	体力運動能力調査
		79				スポーツテスト結果の有効活用	学校等	4.0	A								
	② 望ましい生活習慣を身につける取組の推進	80	「佐々っ子ゆめプラン」啓発の支援	4.0	A	「佐々っ子ゆめプラン」の啓発・検証	学校等	4.0	A	36	就寝時刻(中学生12時より早い時刻、小学生10時より早い時刻)	小:72%	80%	73.5	91.9%	A	学校運営調査
		81	佐々っ子応援団活動の推進	4.0	A	「あいさつ」指導の徹底	学校等	4.0	A			中:77%		81.2	101.5%	A	
		82				望ましい生活習慣を身につけさせるための日常的な取組	学校等	4.0	A	37	起床時刻(6時30分より早い時刻)	75%	80%	67.5	84.3%	A	学校運営調査
	③ 食育の推進	83	「佐々っ子ゆめプラン」啓発の支援	4.0	A	「佐々っ子ゆめプラン」の啓発・検証	学校等	4.0	A	38	「食」に関する栄養教諭による指導回数	データなし	50回	104.0	208.0%	A	実態調査
		84	給食の充実に関する支援	4.0	A	栄養教諭を活用した食育指導の実施	学校等	4.0	A	39	朝ご飯の摂取率	99%	100%	97.0	97.0%	A	学校運営調査
		85				給食指導の充実	学校等	4.0	A								
		86				個別的な健康相談の実施	学校等	4.0	A								

	評価	項総合評価(活動指標)		項総合評価(活動指標)		項総合評価(成果指標)	
		達成度平均: 4.0	総合評価: A	達成度平均: 4.0	総合評価: A	評価平均: 110.3%	総合評価: A
	所見						
3 健やかな 体を 育成す る教育 の推進	所見(佐々小)	体力向上の課題の改善を図るために、目録の中に体力向上の時間を設定した。運営を体育委員会が行うことで、主体的な体力向上を目指すことができ、結果的に体力・運動能力調査で徐々に改善が見られようになった。さらに、体育部が2人体制となっており、これまで以上に体育の時間の充実を図るための手立てとして指導資料の提供など、学年に応じて講じられている。体育の学習内容が学校行事や体験活動とのつながるように意図的に設定し、年間を通した体力向上に努めている。また、生活指導及び保健指導については、これまでの流れプラス、メディア教育を取り入れ、子どもだけでなく家族の中にも指導方針を浸透させている。現在の教育活動の継続を基本とし、さらに工夫改善を図る。					
	所見(口石小)	体力向上プランなどの活用により、授業を中心に児童の課題に沿った体力向上に努め、体育の授業に関する意識は昨年度より向上した。生活習慣は学校保健委員会の取り組みからPTAや外部機関との連携を図りながら改善を呼びかけた。					
	所見(佐々中)	男女共修による授業や多くの競技に親しませる機会を設定した。また、スポーツテストの個人分析は、自分の体力等の特性を知り、改善する指導に生かしたが、県平均を上回る項目が30%に達していない点を考えると生活習慣との因果関係がありそうである。食育については、栄養教諭による食育指導や「食育だより」の発行等で保護者への啓発も含め充実した取組ができた。					
	所見(委員会)	本町児童生徒は、全般的には良好な体力、生活習慣、適切な食生活を送っていることが伺える。しかし、体力における柔軟性についてはジャックナイフストレッチの実施等の取組がなされているものの明確な効果が表れていない。継続した取組が必要である。食生活を含む生活習慣に個別的な課題を持つ児童生徒もあり、家庭や関係機関との連携を進めたい。					

		活 動 指 標								成 果 指 標											
大項目	中項目	NO	教育委員会指標の内容		達成度	評価	学校等指標の内容		対象	達成度	評価	NO	評価の内容		現状値	目標値	該当年度値	達成度	評価	調査	
4 信頼される学校づくりの推進	① 生徒指導・相談体制の充実	87	生徒指導主事・生活指導主任研修会の開催		4.0	A	生活規律の適切な指導		学校等	4.0	A	40	「いじめ」の解消率		100%	100%を維持	100.0	100.0%	A	実態調査	
		88	関係機関との連携		4.0	A	関係機関との連携		学校等	4.0	A	41	不登校児童生徒の割合		1. 06	県平均以下(1.68)	1.2	140.0%	A	実態調査	
		89	佐々子3ヶ条の啓発の支援		4.0	A	佐々子3ヶ条の繰り返しの指導		学校等	4.0	A	42	学校のきまりを守っている児童生徒の割合		91. 4%	95%	93.6	98.5%	A	全国学力調査	
		90	問題行動対応への適切な指導		4.0	A	問題行動への適切な対応		学校等	4.0	A	43	自分にはよいところがあると思う児童生徒の割合		71. 0%	80%	83.1	103.9%	A	全国学力調査	
		91	「いじめ防止基本方針」に従った指導・対応		4.0	A	「いじめ防止基本方針」に従った指導・対応		学校等	4.0	A	44	スクールカウンセラーの配置(県事業)		各校1人	現状維持	1.0	100.0%	○	実態調査	
		92	不登校対策委員会の開催		4.0	A	不登校対策の充実		学校等	4.0	A	45	スクールソーシャルワーカーの配置(県事業)		町内1人	現状維持	1.0	100.0%	○	実態調査	
		93	SC、SSW、心の相談員の配置		4.0	A	相談活動の充実		学校等	4.0	A	46	心の相談員の配置		各校に配置	現状維持	1.3	100.0%	○	実態調査	
	② 学校・家庭・地域の連携を図る取組の推進	94	地域人材活用への支援		4.0	A	地域人材の活用		学校等	4.0	A	47	学校だより等による発信		100%	100%を維持	100.0	100.0%	A	実態調査	
		95	コミュニティ・スクール佐々モデルの充実		4.0	A	コミュニティ・スクール佐々モデルの充実		学校等	4.0	A	48	学校評価の公表		100%	100%を維持	100.0	100.0%	A	実態調査	
		96					学校だより、学級だよりの発行		学校等	4.0	A	49	学校支援ボランティアの実人数		96人	100人	94.0	94.0%	A	学校運営調査	
		97					学校評価結果の公表と適切な活用		学校等	4.0	A										
	③ 教職員の指導力の向上	98					学校運営協議会の充実		学校等	4.0	A										
		99	研修会受講の支援・指導		4.0	A	研修会への積極的な参加		学校等	4.0	A	50	町教委主催の各主任研修会の開催数		12回	12回以上	12.0	100.0%	A	実態調査	
		100	各主任研修会の開催		4.0	A	研修内容の適切な校内伝達や活用		学校等	4.0	A	51	3校共同研究による相互交流授業・研究の実施回数		3回	3回以上	3.0	100.0%	○	実態調査	
		101	3校共同研究の支援・指導		4.0	A	3校共同研究の充実		学校等	4.0	A										
4 信頼される学校づくりの推進	評価	教育委員会項総合評価(活動指標)				学校等項総合評価(活動指標)				項総合評価(成果指標)											
		達成度平均: 4.0 総合評価: A				達成度平均: 4.0 総合評価: A				評価平均: 104.6% 総合評価: A											
	所見																				
	所見(佐々小)	学校運営協議会では、学校情報の公開を進め、意見等も取り入れながら学校運営に活用している。特に、学校運営協議会においては、学校運営に関わる職員組織や学級担任以外の用務、主な教育活動の計画等、可能な限り情報提供をしている。また、職員一人一人と顔が見えるつながりを構築するよう、さまざまな場面を意図的に設定している。その他に学校教育の必要性と佐々子応援団の各組織や団体の活動が学校教育目標の実現を目指した活動と合致するものを取り入れながら、相互に信頼関係を高めている。																			
	所見(口石小)	学校評価はアンケート実施毎に結果と考察を公開した。教育活動を多面的に評価して改善する姿勢を見せることが信頼につながるはずである。いじめに関しては認知件数が低く、実際に起きた事例について解消できた。いじめと認知する基準が甘くならないように事例ごとに厳格に判断する視点を教師側が持つようにし、今まで以上に早期発見に努める。不登校児童に関しては、改善には時間が必要だが、SCやSSWとの連携により保護者との共通理解が図れたことで、今後につながるはずである。																			
	所見(佐々中)	信頼される学校づくりを推進するために、県教育委員会及び町教育委員会からの助言を受けながら教職員の資質・能力の向上を始め、問題行動に対する早期発見・即対応に努めてきた。また、情報発信の観点からは、学校評価の公表や学校だより、学年だより、学級だより、進路だより、保健だより等の時宜を得た発行に努めた。さらに3校合同研究により小中の連携を深め、児童生徒を9年間のスパンで見守ることができている。																			
所見(委員会)	生徒指導については、全体的には良好であるが、個別的に課題を持つ児童生徒がおり、関係機関等との連携を進めていきたい。いじめの解消率は100%と良好であるが、「見落とし」又は「見えない」いじめがないかを常に考えた指導を行っていく。不登校児童生徒の割合は、県平均以下であるが、増加傾向が感じられる。「不登校の予兆の段階」での対応を行う。																				

		活 動 指 標									成 果 指 標						
大項目	中項目	NO	教育委員会指標の内容	達成度	評価	学校等指標の内容	対象	達成度	評価	NO	評価の内容	現状値	目標値	該当年度値	達成度	評価	調査
5 教育環境整備 の推進	① 子どもの安全確保対策の推進	102	危機管理マニュアルに従った指導・対応	4.0	A	危機管理マニュアルに従った指導・対応	学校等	4.0	A	52	通学路安全点検の実施率	100%	100%を維持	100.0	100.0%	A	実態調査
		103	防犯・防災・交通安全教育の支援・指導	4.0	A	防犯・防災・交通安全教育の実施	学校等	4.0	A	53	避難訓練の実施回数	小学校:3回 中学校:2回	現状を維持	小学校:3回 中学校:2回	100.0%	○	実態調査
		104	通学路安全推進会議の開催	4.0	A	通学路安全点検の実施	学校等	4.0	A	54	佐々子応援団あいさつ運動参加者数	50人程度	70人	70	100.0%	A	後期計画
		105				避難訓練の実施	学校等	4.0	A	55	「危機管理マニュアル」の作成率	100%	100%を維持	100.0	100.0%	A	実態調査

5 教育環境整備 の推進	評価 所見	教育委員会項総合評価（活動指標）		学校等項総合評価（活動指標）		項総合評価（成果指標）	
		達成度平均: 4.0	総合評価: A	達成度平均: 4.0	総合評価: A	評価平均: 100.0%	総合評価: A
	所見（佐々小）	交通事故や生活事故等の発生時には、管理職を中心に危機管理マニュアルに沿って適切に対応することを訓練している。教育活動においては、子どもたちの生命や安全を第一とした取組を、管理職が随時確認している。また、事故発生時を想定し教職員の動きを指導しており、万全の体制で教育活動に取り組んでいる。元年度には土曜授業を利用し、保護者への引き渡し訓練を実施した。					
	所見（口石小）	昨年度改定した危機管理マニュアルについて職員間で共通理解を図った。避難訓練は火事・地震・津波・不審者など様々な想定で年間の中で計画的に実施した。					
	所見（佐々中）	毎月校内の危険箇所調査を行い、危険箇所の改善に努めている。町教委の指導の下、通学路安全点検を行った。併せて、校内でも全生徒に登下校の指導を行ったり、職員が登校指導や下校指導に回ったりした。自転車通学生徒に関しては、自転車点検や通ルールについての講習会を開き安全指導を徹底した。避難訓練については、まずは、避難経路の確認、消火訓練、通報訓練、地震時などの避難訓練など現場で起こりうることを想定しながら実施した。					
	所見（委員会）	昨年策定した「佐々町登下校安全プラン」に従って通学路の安全点検を実施した。関係機関との連携が非常に円滑になり、グリーンベルトの設置等が迅速に行われた。「学校の危機管理マニュアルの指針」を策定し、想定される危機に対する対応力を高めた。					

		活 動 指 標									成 果 指 標						
大項目	中項目	NO	教育委員会指標の内容	達成度	評価	学校等指標の内容	対象	達成度	評価	NO	評価の内容	現状値	目標値	該当年度値	達成度	評価	調査
6 学校・家庭・地域の連携 の推進	① 地域教育力（放課後対策等）の充実	106	放課後子ども教室の開催	4.0	A					56	放課後子ども教室参加児童数	60人	150人	850	566.7%	A	後期計画
		107	土曜学習の開催	4.0	A					57	土曜学習参加児童数	データなし	450人	548	121.8%	A	実態調査
		108	佐々子応援団活性化への取組	4.0	A					58	佐々子応援団あいさつ運動参加者数	50人程度	70人	70	100.0%	A	後期計画
	② 地域教育を担う人材の育成	109	地域の担い手の発掘と育成への取組	4.0	A					59	学校支援ボランティアの実人数	96人	100人	94	94.0%	A	実態調査
	③ 青少年健全育成活動の支援	110	佐々子ゆめプランの啓発の支援	4.0	A	佐々子ゆめプランの啓発	学校等	4.0	A	60	佐々子応援団あいさつ運動参加者数	50人程度	70人	70	100.0%	A	後期計画
		111	佐々子応援団活性化への取組	4.0	A												

	評価	教育委員会項総合評価（活動指標）		学校等項総合評価（活動指標）		項総合評価（成果指標）	
		達成度平均: 4.0	総合評価: A	達成度平均: 4.0	総合評価: A	評価平均: 196.5%	総合評価: A
6 学校・家庭・地域の連携の推進	所見						
	所見（佐々小）	昨年度に引き続き校長が登校時校区内安全指導を毎日実施している。さらに、年度末にあいさつ運動に参加されている方々を学校にお招きし、感謝の集会を開催した。このような取組から、あいさつ運動に参加されている方々と学校のつながりが一段と深まり、子どもたちや参加者にとって、心温まるあいさつ運動が実践されている。また、各地域の生活部の取組として、交通安全を目指し定期的な立哨当番があり、子どもたちを暖かく見守る機運が高まっている。今後も活気あるあいさつ運動が継続されるように、学校が中心となって地域の教育力を高めていきたい。					
	所見（口石小）	佐々子応援団あいさつ運動や朝の交通安全指導、サポートティーチャーなど本当に多くの地域の方に協力をいただいている。あいさつ運動はPTAでも生活指導部が中心となって年に10回実施した。					
	所見（佐々中）	佐々子夢プランを各家庭に配布し、周知・徹底を図った。また、アンケートの実施を行い集計、分析を行っている。佐々子応援団の協力のもと、朝の立哨運動など子どもたちの見守り活動を熱心にしていただいた。また、PTAIによる夏季休業中の夜間巡視や、定期的に挨拶運動に参加していただくなど連携強化を図っている。2年生で実施している職場体験学習では、50近くの地域の事業所にお世話になっている。					
	所見（委員会）	「さざっ子応援団」活動や「佐々子土曜学習プログラム」は地域住民の協力による学校・家庭・地域の円滑な連携により効果的に運営されている。「放課後子ども教室」について、「さざっ子ワクワクまなびタイム」を3回開催し、子どもの体験学習の機会の提供に努めた。さらに、社会教育分野から地域住民の協力による学校支援活動へと円滑に移行を進めたい。					

		活 動 指 標								成 果 指 標								
大項目	中項目	NO	教育委員会指標の内容	達成度	評価	学校等指標の内容	対象	達成度	評価	NO	評価の内容		現状値	目標値	該当年度値	達成度	評価	調査
7 生涯学 習・社会 教育の 推進	① 生涯学 習機会や 内容の充 実と支援	112	各種講座の充実への支援	4.0	A	各種講座の充実	公民館	4.0	A	61	各種講座参加者数(年間)	481人 (H26)	700人	573.0	81.9%	A	後期計画	
		113	公民館学習グループ等の自主学 習グループの育成	4.0	A	公民館学習グループ等の自主学習グループの育 成	公民館	4.0	A	62	公民館活動参加者数	365人	450人	521.0	115.8%	A	後期計画	
										63	講座参加者の満足度	データなし	70%以上	98.0	140.0%	A	後期計画	
	② 読書機 会の充実	114	図書館機能充実のための支援・ 指導	4.0	A	書籍の整理と選書の充実	図書館	4.0	A	64	町民一人当たりの貸出冊数	13. 3冊 (H25)	現状以上	10.3	77.4%	B	後期計画	
		115				「読み聞かせ」の実施	図書館	4.0	A	65	読み聞かせへの参加世帯数(土・日の参加)	15世帯程度	現状以上	17.0	113.3%	A	後期計画	
	③ 人権教 育の推進	116	人権に関する講座の開催	4.0	A	人権に関する講座の開催	公民館	4.0	A	66	人権に関する講座の開催数	1回	1回以上	2	200.0%	○	実態調査	
	④ 大学な どと連携 した学習機 会の充実	117	県立大学と連携した学習機会の 充実	4.0	A	県立大学と連携した講座や活動の実施	公民館	4.0	A	67	県立大学と連携した講座や活動の実施数	4回	4回	4	100.0%	A	実態調査	

7 生涯学 習・社会 教育の 推進	評価	教育委員会項総合評価(活動指標)		学校等項総合評価(活動指標)		項総合評価(成果指標)		
		達成度平均: 4.0 総合評価: A		達成度平均: 4.0 総合評価: A		評価平均: 104.7% 総合評価: A		
	所見							
	所見(公民館)	成果指標は、ほぼ達成できた。講座参加者の満足度も高い値で推移している。今後も講座内容を充実させ生涯学習に寄与したい。						
	所見(図書館)	選書及び特設コーナーを充実させ、貸出冊数増を図る。また、参加者増のため、学校・児童・保護者への啓発を充実させ、多くの方々へ周知徹底を図る。						
所見(委員会)	各種講座において、受講後アンケートにより意見を聞くことで、関心がある内容の講座を提供できた。また、講師に県立大学の教授等を招へいすることで、専門的な内容の講座を提供することができた。							

		活 動 指 標								成 果 指 標								
大項目	中項目	NO	教育委員会指標の内容	達成度	評価	学校等指標の内容	対象	達成度	評価	NO	評価の内容		現状値	目標値	該年度値	達成度	評価	調査
8 生涯ス ポーツ の推進	① 社会体育団体の活動の育成・支援	118	社会体育団体の育成・支援	4.0	A	活動の活性化	スポーツ団体	4.0	A	68	スポーツ少年団各部への登録者数及びクラブ数		254人	現状以上	236	92.9%	A	後期計画
		119	登録者数及びクラブ数増加のための取組	4.0	A	登録者数増加のための取組	スポーツ団体	4.0	A				14部	現状以上	13	92.9%	A	
	② 子どもから大人まで楽しめるスポーツイベントの推進	120	スポーツイベントの開催	4.0	A	スポーツイベントの開催	スポーツ団体	4.0	A	69	スポーツイベントへの参加者数		約2,000人	2000人	908	45.4%	D	後期計画
		121				スポーツイベントの運営	スポーツ団体	4.0	A	70	体育協会各部への登録者数及びクラブ数		365人	現状以上	316	86.6%	A	後期計画
	③ スポーツ指導者の育成	122	スポーツ指導者の育成・確保	4.0	A	スポーツ指導者の育成・確保	スポーツ団体	4.0	A				16部	現状以上	13	81.3%	A	後期計画
	④ 体育施設の有効活用	123	体育施設の利用促進	4.0	A	体育施設の積極的な活用	スポーツ団体	4.0	A	71	社会体育施設の利用者数		117,000人	現状を維持	117,428	100.4%	A	実態調査
		124	体育施設の適切な維持・管理	4.0	A					72	維持管理、運営手法の検討		未検討	改善	検討実施	-	-	

8 生涯ス ポーツ の推進	評価	教育委員会項総合評価(活動指標)		学校等項総合評価(活動指標)		項総合評価(成果指標)	
		達成度平均: 4.0 総合評価: A		達成度平均: 4.0 総合評価: A		評価平均: 83.2% 総合評価: A	
	所見						
	所見(スポーツ関係団体)	スポーツ少年団、体育協会ともに目標値を下回っている。今後は周知活動により増加を図っていく。					
	所見(委員会)	スポーツ少年団、体育協会ともに現状値を下回っているが、人数は横ばいとなっている。社会体育施設の利用者数は、目標を達成することができた。今後も利用しやすい施設運営に努めたい。なお、「69 スポーツイベントへの参加者数」の減少については、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、ジョギングフェスティバルを中止したことが主な要因である。					

		活 動 指 標								成 果 指 標							
大項目	中項目	NO	教育委員会指標の内容	達成度	評価	学校等指標の内容	対象	達成度	評価	NO	評価の内容	現状値	目標値	該当年度値	達成度	評価	調査
9 芸術・文化を守り、育てる活動の推進	① 自主文化事業の開催	125	自主文化事業の開催	4.0	A					73	文化にかかわる発表会への参加者数	2,700人	3,000人	2,486	92.6%	A	実態調査
	② 学校教育における郷土教育の推進	126	「佐々町博士」の編集・改訂	4.0	A	「佐々町博士」の活用	学校等	4.0	A	74	「佐々町博士」(歴史分野)の活用度	100%	100%を維持	100.0	100.0%	A	実態調査
	③ 社会教育講座と公民館講座との連携	127	郷土史学習の推進	4.0	A	郷土史学習の実施	公民館	4.0	A	75	社会教育講座、公民館講座における郷土学習の開催回数	5回	現状以上	4	80.0%	A	実態調査
	④ 文化遺産・歴史遺産の保存と活用	128	文化財の適切な保存・保護	4.0	A					76	旧郷土資料館収蔵物の適切な保存	価値評価実施	適切な保存	一部整理	-	-	
		129	文化遺産・歴史遺産についての広報	4.0	A					77	町指定文化財数	11件	13件	11	84.6%	A	後期計画
										78	佐々歴史リーフレットの改訂	-	完成・配布	未実施	-	-	

9	評価	教育委員会項総合評価(活動指標)		学校等項総合評価(活動指標)		項総合評価(成果指標)	
		達成度平均: 4.0	総合評価: A	達成度平均: 4	総合評価: A	評価平均: 89.3%	総合評価: A
芸術・文化を守り、育てる活動の推進	所見						
	所見(学校)	(佐々小)平成29年度より、新しい「佐々町博士」を活用して学習している。児童にとって、分かりやすい内容で、効果的な学習を展開している。特に、子どもたちの興味・関心を高める場面においては、有効である。「佐々町博士」を窓口し、故郷教育をさらに広げ、郷土を愛し、誇りに思える佐々の子どもたちを育成していきたい。(口石小)4年生では社会科だけでなく、総合的な学習の時間で郷土学習を行い、その中で「佐々町博士」を大いに活用した。					
	所見(委員会・公民館の推進)	(公民館)特別講座(北松浦見聞録)では、郷土史学習を実施した。今後色々な角度から佐々町のことを学ぶ郷土史講座を企画したい。(委員会)自主文化では、NHK交響楽団メンバーを招へいし本物の芸術文化に触れる機会の提供を行った。郷土資料館収蔵品は、整理基準を基に一部処分を行った。					

		活 動 指 標								成 果 指 標							
大項目	中項目	NO	教育委員会指標の内容	達成度	評価	学校等指標の内容	対象	達成度	評価	NO	評価の内容	現状値	目標値	該当年度値	達成度	評価	調査
10 新たな 地域文化創造 の推進	① 町民主体の文化芸術活動への支援	130	芸術・文化活動への支援	4.0	A					79	文化にかかわる発表会への参加者数	2,700人	3,000人	2,486	82.9%	A	実態調査
	② 子どもたちが芸術文化にふれあう機会の提供	131	子どもたちが芸術・文化にふれあう機会の提供	4.0	A	子どもたちが芸術・文化にふれあう機会の設定	学校等	4.0	A	80	子どもたちが芸術・文化にふれあう機会の提供数	2回	2回以上	2	100.0%	○	実態調査
	③ 施設の有効利用と管理運営	132	施設利用の促進	4.0	A					81	文化会館年間利用者数	29,500人 (H26)	現状以上	32,807	111.2%	A	後期計画
		133	施設の適切な維持管理、運営方法の検討	4.0	A					82	維持管理、運営方法の検討	未検討	改善	未検討	-	-	実態調査
	④ 地域交流センターの利用促進	134	地域交流センターの利用促進	4.0	A					83	地域交流センターの利用者数	データなし	35,000人	19,008	54.3%	D	総合戦略

	評価	教育委員会項総合評価(活動指標)		学校等項総合評価(活動指標)		項総合評価(成果指標)	
		達成度平均: 4.0	総合評価: A	達成度平均: 4.0	総合評価: A	評価平均: 82.8%	総合評価: A
10 新たな地域文化創造の推進	所見						
	所見(学校)	(佐々小)前年度に引き続き、全校音楽を定期的に取り入れ、合唱に対する児童の意識が変容している。来校者へのお礼等、適宜全校合唱を披露し、合唱の喜びや芸術に対する親しみを感じさせている。さらに、例年、清峰高校吹奏楽部演奏・コーラス部合唱、佐々町音頭、おくんち参加等、多種多様な芸術・文化と接する機会を設け、情操教育の充実を図った。また元年度は、文化芸術による子どもの育成総合事業として、巡回公演を見学し、子どもたちの芸術への興味関心を高めることができた。(口石小)11月の学習公開日には保護者・地域も招き、学習発表の中で児童の音楽発表を行った。また、九州各地で活躍する音楽家による音楽コンサートを開催し、音楽の魅力を身近に感じることができた。夢やあこがれにもつながる機会となった。(佐々中)古典芸能として「狂言 大蔵流 山本会」の鑑賞を行った。子どもたちが実際の芸術に触れあうことができ貴重な体験となった。					
	所見(委員会)	町内の学校や文化協会等の団体と連携し、町民文化祭や青少年音楽祭を開催した。また、長崎県青少年劇場では、中学生を対象に「狂言鑑賞」を行い、本物の芸術文化に触れる機会の提供を行った。地域交流センターの利用者は、定期利用団体の休部により減少している。					

令和元年度 佐々町教育委員会自己点検・評価シート

番号	項 目	評価	所 見
1	教育行政の運営に関する一般方針を決定すること。	A	「佐々町小・中学校空調設備運用の指針」「文化部活動ガイドライン」「佐々町立学校の教職員の業務量の適切な管理等に関する規則」「佐々町立学校の教職員の勤務時間の上限に関する方針」を策定した。また、「佐々町教育振興基本計画」「佐々町小・中学校管理規則」「佐々町立学校出席停止の命令の手続に関する規則」「佐々町心身障害児就学指導委員会規則」「佐々町学校運営協議会規則」の一部改正を行った。
2	学校その他の教育機関の設置及び廃止を決定すること。		該当事案なし。
3	法令に基く認可に関すること。		該当事案なし。
4	教育財産の取得及び処分について、町長へ申し出を行うこと。		該当事案なし。
5	教育予算、その他議会の議決を経るべき事件の議案の作成について、意見を申し出ること。	A	中学校トイレの洋式化、小学校体育館の天井改修、町民体育館の改修等の教育環境整備に係る予算の繰越しについて意見を申し出た。
6	教育委員会の規則の制定又は改廃を行うこと。	A	「佐々町要保護及び準要保護児童生徒就学援助に関する要綱」「佐々町図書館管理運営規則」「佐々町羽ばたけ若者人材育成奨学金支給要綱」「佐々町障がい児保育事業補助金交付要綱」の一部改正を行った。
7	教科用図書の採択に関する基本方針を定めること。	A	県北地区教科書採択協議会において、教科用図書の採択に関する基本方針を定め、小学校教科書及び中学校教科書(道徳科以外)の採択を行った。
8	学校その他の教育機関の施設及び整備計画の大綱を定めること。	A	「佐々町学校給食施設建設基本方針」を策定した。
9	教育長、教育委員会の事務局職員及び教育委員会の所管に属する学校以外の教育機関の職員の人事に関すること。	A	教育委員会の所管に属する機関の人事について承認した。
10	校長、教員その他の教育関係職員の人事に関すること。	A	2月の臨時教育委員会で、教職員の人事について承認した。
11	学校の通学区域の設定及び変更を行うこと。		該当事案なし。
12	法令及び条例に基く委員の委嘱及び解嘱を行うこと。		該当事案なし。
13	校長、教員その他の教育関係職員の研修計画の大綱を定めること。	A	町独自の大綱は定めていないが、校長・教頭については、毎月1回の定例研修会を開催している。その他、教務主任、研究主任、生活指導主任・生徒指導主事、養護教諭、特別支援教育担当者の研修会をそれぞれ3回実施した。また、町雇用の特別支援教育関係の支援員も含めた研修会を実施した。
14	校長、教員その他の教育関係職員並びに生徒児童の保健、安全、厚生及び福利に関する基本方針を定めること。	A	「佐々町教職員安全衛生管理規程」「佐々町教育委員会ストレスチェック実施規定」「佐々町立学校の教職員の業務量の適切な管理等に関する規則」「佐々町立学校の教職員の勤務時間の上限に関する方針」を策定した。また、文化部活動における適切な休養に向けた「文化部活動ガイドライン」を策定し、通知した。
15	学校給食の企画及び指導方針を定めること。	A	「佐々町学校給食施設建設基本方針」を策定した。(再掲)
16	文化財の指定に関すること。	A	新たに、狸山支石墓群から出土した「鯉節形大珠」を町指定有形文化財として指定した。